

【一】鶉衣「おけら」

「虻翁伝」

虻（けら）といふ虫は、
よく飛べども家を過ぐる事あたはず。
よくのぼれども木を窮る事あたはず。
よくおよげども谷を渡る事あたはず。
よく穴ほれども掩ふ事あたはず。
よく走れども人を免るる事あたはず。
是をかれが五能ありて一ツをもなさずとはいへりとぞ。

ここに翁あり、
詩つくれども詩ならず、
歌よめども歌に似ず、
物かけどもよからず、
絵かけどもつたなく、
俳諧すれども下手なり。

我がの虫におとらめやとて、みづから虻翁（ろうおう）ぞ名のりける。
やや老いになり、
今はかかる身のほどをしりて、
他にほめられむ事をねがはず、
人の謗（そしり）をいとはず。
さらば何にか腹たてて、かのつぐみといふ鳥によるこぼるべき。
よしたゞかれは腹たつべくとも、我は笑はむと思へるなりけり。

【二】辞書的な意味

日本国語大辞典

(一)三つの流派。

(二)第三等の階級。二流までもいかない低い等級。

転じて、きわめて質のよくないさま。

【三】人物志

魏の劉邵による著作。明帝（曹叡）の時代の人物。時代背景の話も。

故一流之人能識一流之善

二流之人能識二流之美

十二のしごと

●三材・八業

清節家…徳行すぐれ進退の手本とすべき

法家…法を建て制度を定め強国富人を行う

術家…思通、道化、策謀にすぐれる

●**国体**…上記の三材を兼ね備える**三流の人**

器能…国体よりも器量が小さい

臧否…（そうひ）清節の流れ。批評、是非分別

伎倆…法家の流れ。創思遠図はないが一官の任を果たす

智意…術家の流れ。創制垂則の能はなく公平に欠けるが臨機の智慧はある

●その他…十二材

文章…文を綴って著述する

儒学…聖人の業を伝えるが実務には携わらない

口弁…道には入らないが応対・外交の能がある

驍雄…（ぎょうゆう）胆力、材智、計略に能がある

【四】三流人のための心理学

「サイコシンセシス」

サブ・パーソナリティという考え方

「論理療法」

A B C (D E) 理論

アルバート・エリスのノリ

【五】論語

君子は器ならず

子曰はく、

吾十有五にして學に志す。

三十にして立つ。

四十にして惑はず。

五十にして天命を知る。

六十にして耳順がふ。

七十にして心の欲する所に従つて、矩を踰へず。

子曰、吾十有五而志乎學、三十而立、四十而不惑、五十而知天命、六十而耳順、七十而從心所欲、不踰矩 (02-04)

	0.8	0.7
15	19	21
30	38	43
40	50	58
50	63	72
60	75	86
70	88	100

【惑】



金文

或



声符は或（わく）。或に限定の意、例外の意があり、疑い惑う意がある。

【天】



【命（令）】



天 有 大 令 (命)



(天有大命『大盂鼎』)

【六】中庸

四書 『論語』 『孟子』 『大学（礼記）』 『中庸（礼記）』

【第一章】

天の命ずるをこれ性と謂う。性に率うをこれ道と謂う。道を脩（修）むるをこれ教と謂う。道なる者は、須臾も離るべからざるなり。離るべきは道に非ざるなり。是の故に君子はその睹ざる所に戒慎し、その聞かざる所に恐懼す。隠れたるより見わるるは莫く、微かなるより顕わるるは莫し。故に君子はその独を慎しむなり。

天命之謂性、率性之謂道、修道之謂教。道也者、不可須臾離也、可離非道也。是故君子戒慎乎其所不睹、恐懼乎其所不聞、莫見乎隱、莫顯乎微、故君子慎其獨也。

【第十一章】

(A) 誠（なる者）は、天の道なり。

(B) これを誠にする者は、人の道なり。

(A) 誠（なる）者は、勉めずして中たり、思わずして得、従容として道に中たる、聖人なり。

(B) これを誠にする者は、善を択びて固くこれを執る者なり。

誠者、天之道也。誠之者、人之道也。誠者不勉而中、不思而得、従容中道、聖人也。誠之者、擇善而固執之者也。

●博くこれを学び、審らかにこれを問い、慎しみてこれを思い、明らかにこれを弁じ、篤くこれを行なう。（博学、審問、慎思、明弁、篤行）

●学ばざることあれば、これを学びて能くせざれば措かざるなり。

問わざることあれば、これを問いて知らざれば措かざるなり。

思わざることあれば、これを思いて得ざれば措かざるなり。

弁ぜざることあれば、これを弁じて明らかならざれば措かざるなり。

行なわざることあれば、これを行ないて篤からざれば措かざるなり。

●人一たびしてこれを能くすれば、己れはこれを百たびす。

人十たびしてこれを能くすれば、己れはこれを千たびす。

果たして此の道を能くすれば、愚なりと雖も必ず明らかに、柔なりと雖も必ず強からん。

博學之、審問之、慎思之、明辨之、篤行之。有弗學、學之弗能、弗措也。有弗問、問之弗知、弗措也。有弗思、思之弗得、弗措也。有弗辨、辨之弗明、弗措也。有弗行、行之弗篤、弗措也。人一能之己百之、人十能之己千之。果能此道矣、雖愚必明、雖柔必強。

【七】 Homo Sum

Homō sum. ホモ・スム。

Hūmāni nīl ā me' aliēnum putō.

フーマーニー・ニール・アー・マー・アリエーヌム・プトー

「私は、人間的なもののうち、いかなるものも自分から（＝自分と）無縁であるとは考えない」

「山下太郎のラテン語入門」 <https://aeneis.jp/?p=508>

【八】 二兔を追う者は

「二兔を追う者は一兔をも得ず」『西洋諺草 (1877)』。
東洋では一本の矢で二兔を貫く一石二鳥的な使い方。一石二鳥も西洋由来。
旧唐書「大曆七年十月壬子、上畋于苑中、矢一發貫二兔(代宗紀)」

【九】 「お前は飽きっぽい」

「飽きっぽい」

I am tired.

It's boring.

【tire (v.)】

"to weary," also "to become weary," Old English *teorian* (Kentish *tiorian*) "to fail, cease; become weary; make weary, exhaust," of uncertain origin; according to Watkins possibly from Proto-Germanic **teuzon*, from a suffixed form of PIE root **deu-* (1) "to lack, be wanting." Related: Tired; tiring.

【bore (v.)】

Old English *borian* "to bore through, perforate," from *bor* "auger," from Proto-Germanic **buron* (source also of Old Norse *bora*, Swedish *borra*, Old High German *boron*, Middle Dutch *boren*, German *bohren*), from PIE root **bhorh-* "hole."

【十】「三流」的読書法

小学校高学年まで「本」を読んだことがなかった
カフェや電車でしか読めない
本を一冊読み切れない・飽きる

難しい本はトイレで

買ったらずぐに全体を把握（カフェ）

要約可能な本とそうじゃない本

著者（編集者）のつもりで読む

全部を読もうとは思わない

【別】（スゴイ）三流列伝

世阿弥

空海

ダビンチ

孔子

項羽と劉邦

井原西鶴

など